
ハピニングレンアイ (上)

杏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハピニングレンアイ（上）

【著者名】

杏

【あらすじ】

恵理奈と聖也のレンアイ

胸のドキドキが止まらない！――

こきなりハピニシング……（前書き）

杏です。今回も基本的に恋愛をテーマにして「ハピニシングレンジアイ」を書きました。

これは、（上）なので（下）も後ほど書きたこと思こます。

「これなりハプニング……！」

「私、あなたの『好き』はわからない……！」

私は、青樹恵理奈14歳。たったいま失恋。私が恋した相手は、田崎裕太14歳。

同じクラスで密かに恋してた……。

そして告白する決心がついて……。

「田崎君、好きです……。」

「え？ ……」

「付き合ってください」

「あ、えと『めんなれ』。俺、狩野美香ひやんが好きだから……。」

「え？ やめたまつがい……あの子、裏では『じへ意地悪な子な』のよつ……。」

「何言つてその？ あんなに優しく美香ちゃんがそんなわけないだろ

う

「えりかみつじてよ

「……」

「あなたの『好き』は、わからない……！」

酷い終り方でしょ。

でも、私が言つた事は嘘なんかじゃない！！！

本当のこと。狩野美香ちゃんは美人で優しいと男子に評判のモテ女つてやつね。。

だけど、裏では友達をいいよつに使ってキャバ嬢で働いてるの。

それを分かつてほしかつただけなのに。

私は涙が溢れそうになる。空を見るといつも悲しさが倍になつて唇をかみ締めた。

次の日、私は狩野美香に呼び出された。

「あんた、私のことを田崎裕太に言つたわね？」

「うん、言つて何が悪いの？」

「止めや」

「やめなよ！」

誰・・・？私は美香に殴られて意識はすでにもうひとつしていた。

「・・・な！」「えれな・・・」「えれなつ！――氣がついたのつ
？？？」

「うー、うー。」

「保健室だよ。」

「ああ、志保ちゃん。」

「ああじゃなこでしょ、まつたく。」

「・・・誰が私をここまで運んでおたの?」

「んーと名前がたしか『山下聖也』とかー。」

「だれ?」

「知らないよー知り合いじゃなかつたの?なんか友達がどーたらつて言つてたけど」

「ナニハ・・・」

山下聖也・・・。さうかでないとあるような。
あーもやもやする。考えるのがめったつ

その日の帰り道

「はー今日はサンサンな一日だった。」

「やあー。元気そうだね。」

「だつ・・・だれ?変態?/?」

「ひつ醋いなあー聖せだみおーヨト羅せーーー。」

「ん?ーせーーーん?ー」

「わちーせーこくんだあーーー」

「わちせがね態扱こしたくせりーーー」

「いぬさつへーーー」

「でもよかつた。相に会こたかつたんだ」

「じいゆうじるべーーー」

「続く 「ハリー・ハグレンハイド」」

こきなりハプニング！！！！！！（後書き）

2個目の作品、「レンアイハプニング（上）」を見てくださいがありがとうござります。

初の作品「私が語る私の恋」も見てください。

内容が幼稚くさいかもせんが多めに見てください（、・・・・・）

「レンアイハプニング（下）」も宜しくお願ひします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7958o/>

ハプニングレンアイ（上）

2010年11月9日00時43分発行